



生徒の皆さんへのメッセージ(その12)

**人間としての基礎・基本を築く中学校時代を大切に**  
**— “学習にしっかり向き合う秋、時間をかけて努力しよう” —**

校長 西田 隆夫

2学期も佳境に入ってきました。3年生の皆さんの日頃のがんばりは目を見張るものがあります。基礎・基本に徹底的に取り組みながら「問題を深く考える」ことを継続してください。一つ一つの問題をていねいに扱い、自分が志望している高校の過去の問題を徹底的に研究しておくことが大切です。希望している進路が実現するよう心から応援しています。

**□ 高校へ行っても伸びていくために、中学校時代の学習を工夫改善しよう(5)**

次に、問題を考えるにも考える方法があります。学習内容は「易から難」の順に組み立てられている、と前回に述べましたが、難問に突き当たったときは、やさしい内容に戻ることを基本に、今まで学習したこと(先行経験)を総動員して、① 比較して考えたり、② 置き換えて考えたり、③ 実物を見て考えたりしましょう。あれかこれかといろいろ手を尽くしていくことが考えるということの中身であり、集中力を付けていくことにつながるのです。

また、何事にもわかる、できるという成果が実感できるようになるには、一定期間がまんすることも重要なことです。英語を例にとると、英米人が話す生の英語、CDなどから流れてくる自然な英語を聞き取るのはずいぶん骨が折れますね。それができるようになるには、単語や語句、文型、文法などを覚えたり、生活習慣などの文化背景を捉えながら、同じ文を何度もCDが擦り切れるまで聞いたりするがまんの時期を一定経過することが必要となります。まとまりのある内容が普通のスピードで話されている場合、最初は頭の中で日本語に置き換えようとする時期が続きます。しかし、いつしかごく自然に、頭の中での日本語訳を介さなくても内容が解ってくる場合があります。一定期間がまんをして英語を聞き続けると壁を突き破る瞬間があり、話されている内容が英語のまま理解できる段階に入ってくるのです。そして、やがては英語を母国語としている人たちの高いレベルの内容やスピードの速い会話なども大まかな意味が把握できるところまで上達することができます。聞くことだけにかぎらず、英語を読むことにおいても、逐一日本語に訳さなくても英文を英文のまま理解できるようになります。このような状況を古くから“見えない河を渡る”などと独特の表現をして、一段と高い段階に入ったその瞬間を言い表しています。

数学などでも基本となる公式や定理などの成り立ちや仕組みをよく理解した上で、時間をかけて何題も難問に挑戦していると、あるときを境にして一気に“霧が晴れるように”問題を解くコツやツボが飲み込めるときがきます。高校でも伸びていくためにぜひ生徒諸君にはこのような“ああ、できる・分かるとはこういうことなんだ、何か一段と自分が高い境地に入った気がする”という胸に迫り来る経験を中学校時代にしておいてほしいのです。勉強で壁を突き破り、高い次元に達するには、漫然と問題に向き合うのではなく、あれやこれやと方法を尽くして頭を柔らかくし、その働かせる領域を広げる工夫をしてみるということが重要なのです。

**□ 秋はものを思う季節、読書で深めよう**      **—読書の工夫あれこれ**

秋の澄み切った空気は人を深い思索へと誘うようです。ものを思い、考え、しばし立ち止まり自分という存在を、家族を、友人への思いを深めるときです。人として生きていることの喜びを全身で浸りきることができる季節です。加えて読書を通して時代を超えて変わらない人生の不思議を感じ取ってほしいのです。このときと場所を超越して人間というもの多様なありようを教えてくれるところに読書の醍醐味があります。一冊の本を手元に。



また次回に。